



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第20号

目次

- 和歌山大学と包括的連携協定を締結する
- 「第11回 3大学国際ジョイント・セミナー・シンポジウム」に参加
- 産学官連携の国際化：医学部とRostock大学医学部との学術交流協定締結
- 津市教育委員会と教育学部間で連携協力を調印
- 三重大学発「創業バイオベンチャー」が創業

- 「Polycomを使っでの遠隔授業」
- 附属図書館が土井治氏旧蔵書コレクション展示・コンサート・講演会を開催
- 「実験動物感謝式」が举行される
- 教育学部フレンドシップ事業・第9回ジュニア・アスリートフェスティバル開催

できごと

- ・「科学研究費補助金に係る説明会」開催
- ・「Mip特許塾」開講
- ・近鉄江戸橋駅の駅名表示

和歌山大学と包括的連携協定を締結する

本学は、11月30日、和歌山大学（小田章学長）と「包括的連携に関する協定」を締結しました。両大学は、文化、伝統、自然環境及び産業構造において共通の特色を持った紀伊半島地域圏に立地することから地域の生活、学芸、環境及び産業の発展向上に寄与することを共通の使命とし、数年前から相互協力、連携についての話し合いを重ねてきました。この4月からの国立大学法人移行後の双方の新体制のもとでも緊密な連携の必要性が強く認識され、学長及び役員会メンバーによる意見交換と協定締結に向けた具体的準備を進めてきた結果、双方の大学の全学的な合意を得て締結に至りました。

なお、調印式には学長の代理として、和歌山大学からは藤本理事が来学され、本学からは、森野副学長が和歌山大学を訪れ、両大学で同時に調印が行われました。



和歌山大学 藤本清二郎理事 豊田長康学長

「第11回 3大学国際ジョイント・セミナー・シンポジウム」に参加

10月27日～10月30日、標記のシンポジウムが協定校であるタイのチェンマイ大学で開催され、11大学（日本1、中国3、タイ4、インドネシア1、バングラデシュ1、ラオス1）の参加がありました。本学（团长：伊藤信孝教授）からは、教職員6名、学生15名が参加しました。大会のテーマである「世界におけるアジアの役割—人口・食料・エネルギー・環境—」、グローバル・テトラレンマ（地球規模の4重苦）に関する学生の英語論文発表、本事業設立大学（三重大学・江蘇大学）からのメモリアル・スピーチ、一般講演、人口・食料・エネルギー・環境に関する国際的學生混成グループ別ワークショップの発表、施設見学、スポーツ大会、パーティでのアトラクションによる異文化交流のふれあい等、有意義な大会でした。

産学官連携の国際化：医学部とRostock大学医学部との学術交流協定締結



Rostock大学 ノルゲ・シヨンブルグ 医学部長 鎮西康雄 医学部長

10月27日～11月4日にかけて、みえメディカルバレープロジェクトの一環で産・学・官の派遣団が欧州を訪問しました。本学からは本プロジェクトの团长である鎮西康雄医学部長と西川政勝附属病院副治験管理センター長、奥村克純生物資源学部教授が参加しました。10月29日には本学医学部との間で、この春（フラッシュニュース15号参照）合意している医学医療分野の学生、医師、研究者の交流と共同研究等を中心とした学術交流協定をRostock大学（ドイツ北東部Mecklenburg-Vorpommern州）医学部（学部長：ノルゲ・シヨンブルグ教授）と締結しました。その最初の事業として、再生医療・生体材料分野での日独ワークショップを来年9月に本学で開催することが決まりました。また、本学からの参加者は、協定調印後、Rostock大学をはじめ、ルンド大学（スウェーデン）の食品工学科および同化学工学センターの教授らを訪問する他、鈴村-ルンドストルム主任の日本語科講義の中で本学の大学紹介を行うなど、短い訪問期間ながら、多方面にわたる交流が行われました。今回の訪問を契機に、様々な分野での共同研究や、学生・研究者交流が各大学との間で進み、産学官連携の国際化が一層推進することが期待されます。



津市教育委員会と教育学部間で連携協力を調印

教育学部（学部長：丹保健一教授）は、11月16日津市役所において津市教育委員会（教育長：田中彌氏）と連携協力に関する協定書に調印しました。連携協力によって「現役教諭のより高い指導力の向上」、「学校における教育活動の充実・活性化」、「学校での必要性に応える教員育成への参加」など相互に効果が期待されています。



田中彌教育長 丹保健一学部長

三重大学発「創薬バイオベンチャー」が創業

医学部では一昨年から新しいパラダイムのもとで産学連携を推進し、医学研究を社会に役立てることを目指してきました。この度10月5日にその成果のひとつとして初の創薬バイオベンチャー、(株) イミュノフロンティア（社長：菱田忠士氏）が設立されました。同社は医学部内科学第二講座（珠玖洋教授）の研究を中心としたがん・免疫分野の最先端の研究成果を医療として実現することを目的とし、がんワクチンや免疫疾患治療薬などイノベティブな新薬の開発を国内外で展開します。

「Polycomを使っての遠隔授業」

米国ノースカロライナ大学ウilmington校(UNCW)との遠隔授業が10月27日に新規導入された同時会議システムPolycomを使ってインターネット経由で行われました。この遠隔授業はUNCWの「映画を通しての日本文化研究」（担当：加納洋子講師・学芸学部）と教育学部英語科「英作文IV」（担当：早瀬光秋教授）が学期中5～6回行い、今年で7年目になります。インターネットを利用するためPolycomは通信経費が無料で、通信の状態は安定して映像・音声とも鮮明です。両大学の受講生は当日のテーマである「日米における人間関係と結婚」について熱心に英語で意見交換を行いました。



附属図書館が土井治氏旧蔵書コレクション展示・コンサート・講演会を開催

尾鷲市の名士で、立原道造氏と交流があったことでも有名な土井治氏旧蔵書コレクションの展示を、尾鷲市制50周年記念事業と共催して尾鷲市中央公民館で11月6～8日に開催しました。7日には、尾鷲女声コーラス、本学出身の歌手によるコンサート及び帝塚山学院大学山田俊幸教授による「土井治と立原道造」と題する講演会が開催され、土井家所縁の人々や地元住民等約350名が来場し、地元の文化人を讃えながら鑑賞しました。

「実験動物感謝式」が挙行される

11月9日、生命科学支援センター（センター長：鈴木宏治教授）の主催で、本学医学部構内「医礎の庭」において「実験動物感謝式」が挙行されました。センター長の式辞に続いて、動物実験に携わる全学の教職員・学生100余名が実験動物慰霊碑に献花を行い、医学の発展と生命科学の進歩のために供せられた動物に感謝の念と敬意を表しました。

教育学部フレンドシップ事業・第9回ジュニア・アスリートフェスティバル開催



11月13日、「陸上競技」の特別授業（実技講習会）が開催されました。これは、教育学部保健体育コースの「陸上競技（担当：杉田正明助教授）」の授業の一環として、日本の一流選手から指導法を学ぶことや、子どもとふれあいながら陸上競技の楽しさを伝えることを企画し実施しているもので、今回は、アテネオリンピック日本代表の朝原宣治選手（100m、4×100mリレー）を講師として招き、「短距離走のトレーニング」としてウォーミングアップの方法や走り方など約2時間30分にわたる特別授業が行われました。参加した中、高校生約500名は、アスリートより直に教わる機会を得て大変有意義な1日となったようです。

できごと

「科学研究費補助金に係る説明会」開催

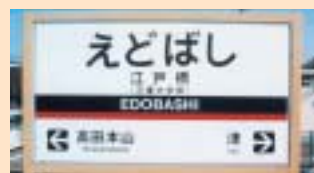
10月12日に本年度3回目の説明会が講堂小ホールにおいて開催されました。研究機関は、補助金の不正な使用を防止するため、研究者及び事務職員を対象とした、研修会・説明会を積極的・定期的に実施することが義務付けされています。

「Mip特許塾」開講

本学の研究者（院生以上）が、研究成果をいかに特許等の出願に結びつけるかを重点に、Mip（Mie intellectual property）特許塾を開講中です。（詳しくは、<http://www.crc.mie-u.ac.jp/liaison/index1.html>）

近鉄江戸橋駅の駅名表示

本学の最寄り駅である「近鉄江戸橋駅」の駅名表示板が近畿日本鉄道(株)のご配慮により、11月6日から江戸橋(三重大学前)と変わりました。



投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-j@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾